

日本ボストン会 会報

第53号



飛鳥山の桜

ボストン日本祭りに参加して 細田満和子

今年もボストン日本祭りが盛大に開催され、多くの日本人の皆様が現地ボストンの方々と交わり合い、素晴らしいコミュニティが作られていることを目の当たりにしました。2012年から毎年開催されるこの祭りに、今回3回目の参加をしてみましたので、ご報告いたします。

ボストン日本祭りでは、毎回ブースを持ち、東日本大震災の被災地の方々の制作物や、被災地を応援する方々の制作物を展示したり、販売したりしています。東日本大震災発生時はボストンに在住しており、国籍を問わず多くのボストンの方々が支援のために活動されていたので、その後の被災地を伝えたいという思いがあるからです。震災の記憶を風化させず、被災者に思いを寄せて下さるボストンの方にお礼の気持ちを示せることができたと思っています。

昨年は、東日本大震災の津波被害でまだ見つからない方々に思いを寄せる箱根在住の皆様が作る、「還り雛」という雛人形を展示しました。私の勤務先である星槎大学の箱根キャンパスの地域交流室が、皆さんの製作の場であるご縁から、ボストン日本祭りで展示させていただいています。こうした「還り雛」を見て、何かに役立ててほしいと寄付を申し出る方も多く、昨年も

今年も温かいお志が集まりました。箱根の皆さんは、そのお志を桜に変えて被災地に植えようとされています。日本祭りでは、ボストンの善意が箱根の皆さんのお心と共に、桜となって被災地に届くことを語り合う、いい時間を持つことができました。

このような催しを支援することは、本当に意義深いものとあらためて感じました。これからもこの祭りが続いていきますように願っております。



「還り雛」
を見つめる
子どもたち

ボストン日本祭りに関して 八代江津子

2年のお手伝い、そして2014年からは日本祭りの主催者（JBBA会長）また、実行委員会委員長として活動をして参りましたがこの度、委員長を後任に任せることになりました。今後は主催者として次期委員長を支えながら活動をして行く所存です。

2012年にボストン日本祭りは始まりました。ワシントン桜植樹100周年記念を祝い領事館のサポートを得ての開催でした。初年はアメリカ、ボストンの方々の日本への興味の度合いもわからず、開催を成功させるということを目的に活動したように思います。2014年に私が実行委員長を引き受け、実行委員会を作り上げる上でそれまでの2年の経験をどう反映して行くかを考えました。委員会全員のボストン日本祭りへの思いを理念に変えられないかと、ミーティングを重ねました。そこで合意できたのが現在の日本祭りの理念です。その理念の元、文化の交流から世界の平和への一步を歩みたいと思い続けたのが私の祭りへの思いです。知らぬことに対する恐怖を除き、触れ合うという温もりから得られる親近感を平和への思いに変えて行きたいという思いで歩んだ6年間でした。

私の委員長として最後となった本年、2019年日本祭りは、新しく地元の日本人の交流の場となるステージを増設しました。京都市ーボストン市の60周年を祝い、京都市長にもお越しいただき、歴史パビリオン、京都パビリオン、で京都を満喫していただける祭りとなりました。満足のいくとてもいい祭り

となりました。日本ボストン会の皆様のご好意により、またサポートにより実現できた数々です。

心から皆様に感謝いたします。

今後とも日本とボストンという学術都市との交流にご尽力いただければ幸いです。

ありがとうございました。



NEXT EVENTS

奮ってご参加ください

総会

NEC三田ハウス芝クラブ

日時：11月26日(火)

開場：午後6時

開演：午後6時30分

会費：事前送金 ￥5,000

当日払い ￥6,000

同伴者 ￥5,000

詳細：HP

申込・問合せ： 

ハイキングと紅葉狩りの会

- 紅葉狩り：浜離宮、小石川後楽園、新宿御苑などが候補 -

日時：12月1日(日)

詳細：未定 HP

申込・問合せ： 

「盆石」の紹介と実演

日時：11月30日(土)

午後1時30分から解説・実演

午後3時30分から懇談

場所：かしわぎ桃花源

(新宿区北新宿)

会費：2,000円(茶菓子を含む)

詳細：HP

申込・問合せ： 

ゴルフの会

日時：12月10日(火)

午前9時集合

場所：飯能グリーンCC

プレー費：15,300

詳細：HP

申込・問合せ： 

寄稿：ボストンと私（その2）

法眼健作

ニューイングランド6州について私がボストン総領事当時に体験した面白い話の続編。

前回に引き続きメイン州の漁業関係者の話。日本総領事としてメイン州を訪問した際に同州の農・漁業フェアに出かけた。巨大な倉庫のような会場を見学していると1人の中年の男性が近づいてきて「あなたが日本総領事ですか。私は日本の漁業会社から差別の目にあっているので文句を言いたい。」とおっしゃる。私がどういうことですかと尋ねると「私が所有する海岸でウニが取れる。隣の海岸を所有する男もウニを取っている。ところが同じウニなのに日本人の漁業会社の連中は隣の男に私に支払う2倍以上のお金を支払っている。これはどういうことなのか？」とお憤りである。ボストンに帰って大洋漁業と極洋漁業の駐在員に聞いてみると、「それは色が違うから。明るいオレンジ色のウニは高く、暗い茶色は安い。これは仕方がない。」とのことであった。電話でメイン州のおじさんに説明をしたが納得してくれなかった。

ヴァーモント州。知事さんに表敬に行った。州都のモンペリエは小さいが整然としてゴミ一つ落ちていない美しい町。女流政治家の知事さんは「この州、特にこの町は日本に沢山買ってもらって儲かっているのです」と言う。何を輸出されているのかと聞くと「大谷石」。良質の大谷石の山が沢山あり、墓石用として高値で日本向けに輸出している由。思いがけないところに思いがけない輸出品があるものである。

ニューハンプシャー州。当時は日米貿易摩擦の最中で、総領事の大切な仕事は各地に出かけてスピーチをして日本側の言い分を伝えることであり、私はどこにでも出かけた。日本側の論点は「日本人の欲しいもの、日本の家屋にあったものを輸出すべき」というものである。ニューハンプシャーは良質の家具をすることで有名である。演壇の上に大きな立派なソファがあったので、私はそれを指さし、「このソファは素晴らしいが、大きすぎて、これを東京の私の家に入れたら1階のフロアはこの家具で一杯になってしまう。だからもっと小さいソファを作りなさい。日本のサイズ！！」と言うと、皆納得してくれた。スピーチが終わると家具屋さんの社長みたいな人がやって来て「総領事、どのくらいのサイズが良いですか？と言いながら、巻き尺を出して私の体の寸法を取り始めたのには参りました。

このようにニューイングランドは知性があり善意の固まりのようなアメリカ人が住んでいるところであり、ボストンが代表的存在である。ボストンの日米協会は「Japan Society of Boston」が名称である。普通どの地でも「US - Japan Society of Atlanta」とか「Japan - America Society of L.A.」であるのにU.S.とかAmericaがない。不思議に思った私が当時会長だったAldenさんにそのことを聞くと、彼は嬉しそうにこう答えた。「それは、Ken、この会は日本のことに興味を持つアメリカ人が自分達で日本のことを研究する日本研究、日本勉強会としてこしらえた会なのだよ」とおっしゃった。私は感激した。1904年。当時のボストンは今の何倍もの影響力を全米で持っていた。その有力者たちが自分達で集まって作ったのがこの会である。「それはね、鎖国が終わって日本に行くことができるようになったアメリカ人が、他のアジアの国とは格の違う素晴らしい国：Japanがあったから日本に憧れた人がボストンに沢山いたのだよ」と行ったAldenさんの顔は忘れられない。

書き始めたら思いは尽きないが、この辺でやめておきます。

WG活動（2019年3月～2019年9月）

2019年（平成31年・令和元年）

3月17日	伝統芸能の会 3月歌舞伎公演鑑賞（国立劇場）
3月30日	お花見の会「飛鳥山公園（東京、王子）」
4月28日	音楽の会 ホームコンサート（第14回）
5月29日	美術と歴史の会「川村美術館見学」

伝統芸能の会 - 国立劇場歌舞伎観劇会 吉野静子、滝沢典之

平成31年3月21日（春分の日）平成最後の日本ボストン会「伝統芸能の会」国立劇場歌舞伎観劇会を開催いたしました。観劇は27名、アフタヌーンティーは19名の会員の皆様のご参加をいただきました。

演目は①「元禄忠臣蔵」御浜御殿綱豊卿 ②「積恋雪関扉」出演者は中村扇雀、尾上菊之助、中村梅枝、中村歌昇、中村萬太郎、中村虎之介／中村又五郎 ほか。

「元禄忠臣蔵」は、真山青果作の新歌舞伎の名作です。「仮名手本忠臣蔵」よりも史実に近いストーリーで、また違った忠臣蔵をお楽しみいただきました。

今回は、「元禄忠臣蔵」の中でも随一の名場面「御浜御殿綱豊卿」を上演、扇雀さんが綱豊卿を演じ、又五郎さん、歌昇さん（又五郎さんのご子息）、虎之介さん（扇雀さんのご子息）が脇を固めておりました。

「積恋雪関扉」は歌舞伎舞踊の大曲です。菊之助さんがこの大曲に挑みました。菊之助さんのほか、梅枝さんと萬太郎さんの兄弟が共演しました。今回は小劇場ということで、舞台と観客席の距離が近く、臨場感あふれる公演を体験いたしました。

開演前には国立劇場のOBの北潟喜久様のレクチャーを拝聴しました。



観劇後には茂木元会長（日本芸術文化振興会前理事長）にもご参加いただき、今回初めての試みの「アフタヌーンティー」（ホテルグランドアーク半蔵門）では皇居の緑と早咲きの桜を見下ろすラウンジで優雅なアフタヌーンティータイムを楽しむことができました。

ご参加いただきました皆様、日本芸術文化振興会の北潟様、西沢様にはこの場をお借りして御礼を申し上げます。



お花見の会 - 飛鳥山公園

小野田勝洋、生田英樹

開催：3月30日（土曜日）10：00～14：30、集合：JR京浜東北線王寺駅 中央口改札

参加者：鶴ご夫妻、関ご夫妻、藤盛富美子さん、中埜ご夫妻（お花見のみ）、篠崎和子さん、俣野ご夫妻、土居陽夫さん、幸野眞士さん、森裕子さん、生田さん、田部さん・遠山さん（生田友人）、小野田夫妻、森川ご夫妻（小野田友人）、計20名

行程：10：00JR王寺駅中央口改札出口⇒飛鳥山山頂（標高25.4m東京で一番低い山）⇒11：00

渋沢庭園⇒11：30音無親水公園⇒王子神社12：00⇒12：15北トピア⇒12：30宴会場16Fにて会食開始⇒解散14：30



飛鳥山は将軍吉宗が江戸庶民の健全な娯楽の場を提供するために桜を植えお花見の場とした所。飛鳥山西端には渋沢栄一の旧宅と旧庭園。音無親水公園は小さいながら日本の都市公園百選に選ばれた公園。王子神社は王子の地名の元ともなった荘厳な神社。七部咲きの桜を愛でながらこれらを巡り、懇親会場のある北とぴあに到着。飛鳥山・王子の俯瞰と和食膳を楽しみ歓談。

音楽の会・第14回ホームコンサート

関 直彦・尚子

平成最後の日曜日となった4月28日。この日を祝うかのように、久し振りの快晴に恵まれました。関幹事宅において今回で14回目を迎えたクラシック・ホームコンサートには、当会会員であり、ボストン大学の音楽博士号を持つピアニスト、大沼岳彦さんに帰国10周年記念として再登場いただきました。33名の出席者の皆さん、素晴らしい演奏を堪能されました。ショパン、バッハ、ベートーヴェンの作品の後、ファウストをモチーフとした40分に及ぶリストの大作ソナタを、全く休むことなく見事に演奏。巧みな話術による解説もあって、音楽を楽しむだけでなく、曲の背景にある意味を学びながらの鑑賞で、大好評でした。

演奏後は恒例により、皆さん懇親会で会話に花を咲かせ、交流を一層深められたようです。ご高齢の方も多いのですが、いつものように大いに楽しんでいただけたようで、何よりでした。



美術と歴史の会 - 川村美術館見学記

三好 彰

美術と歴史の会で千葉県佐倉市にあるD I C川村美術館を5月29日に見学した。D I Cは大日本インキ製造（株）と称していた会社だが、事業の幅を広げて社名を今様にしたようだ。歴代の会社幹部が美術の愛好家であり、そのコレクションがこの美術館の基になっている。

参加者は10人であった（文末に参加者名を記す）。千葉県外の参加者は東京駅から乗り換え無しで同美術館に行ける一日一便のバスを利用した。

館内のレストランの勧めに従って早めの昼食とした。大きな池を囲むように、どこまでも広がっている庭を一望できる特等席であった。

各自で選んだオプションはウェイトレスを悩ませるほどに多様だった。千葉産の食材を活かしたイタリア料理であり、地元のクラフトビールも好評だった。

談笑に花が咲いた。気が付くと1時だった。急ぎ足で美術館に向かった。建物、そのものが芸術品だと圧倒されながら館内に入る。

最初の部屋「印象派からエコール・ド：パリ」に圧倒される。第一級の作品がずらりと揃っている。我々以外に人は居ないので、作品にどっぷりとひたることができた。次はレンブラントの「広つば帽を被った男(1635)」だけの部屋を一人で静かに鑑賞した。

ついで「初期抽象」、「ポップ・アート」、「シュルレアリスム」、さらに現代の抽象絵画へと進む。画家の意図が筆者にはだんだん読み取りにくくなってきた。「だから疲れる」との声も聞こえた。

特別展は「ジョゼフ・コーネル(1903-1972)のコラージュ・モンタージュ」であった。身の回りにある写真や本などをガラス板で閉じられたシンプルな箱の中に入れた作品である。シュルレアリスムの技法を用いて、彼の感性のままに作り上げているという。理性でとらえようとしてはいけないようだ、つまり筆者には難解だった。

庭に出た。早緑の森に囲まれた池に白鳥がゆったりと浮かんでいた。数日前の猛暑が信じられないすがすがしさはまさに天恵であった。みどりの風を胸の奥まで吸い込んだ。（写真は小野田氏による）



参加者（順不同、敬称略）：藤盛夫妻、小野田夫妻、棚橋、森（裕子）、酒井夫妻、三好夫妻

日本ボストン会会報第1号~第42号の全文HP掲載について

日本ボストン会幹事 小野田勝洋

日本ボストン会は1992年10月30日に設立準備会が開催され、その場で侯野善彦氏が会報担当を引き受け、1993年4月30日に第1号会報が発行されました。会報は毎年春と秋の2回発行されています。この会報は紙媒体でした。その後2013年9月3日の幹事会において会報を電子版化することが決定され、2014年10月10日の会報が電子版の初版（会報第43号）として発行されました。紙媒体の会報は2013年10月4日発行の第42号が最終版となりました。この時会報担当は侯野善彦氏から土居陽夫氏に交代となりました。その後、2019年3月12日発行の電子会報第10版（会報第52号）まで継続して発行されています。会報は日本ボストン会ホームページに掲載され、電子版は全文、紙媒体版は第1ページ目のみがそれぞれpdf形式で掲載されています。

電子版はホームページに全文掲載されているのですが、紙媒体版は各号会報の第1ページ目のみの掲載です。紙媒体版の全文掲載につき、2018年9月12日の第92回日本ボストン会幹事会にて検討されました。侯野幹事が紙媒体版を整理し、小野田がそれをスキャンしpdf化することを申し出ました。ホームページ掲載は吉田幹事が引き受けてくれました。個人情報や会計情報についての扱いを配慮したうえで全文掲載することが幹事会において了解されました。2019年12月までにはこのプロジェクトは完了する予定です。

日本ボストン会会報 第1号
平成5年（1993年）4月30日

日本ボストン会会報

発行所 日本ボストン会事務局

日本ボストン会の発足にあたって
幹事一詞
日米関係とは歴史的には日本とニューイングランドの関係を始まるのは良くも存じの通りである。ボストンを中心とするニューイングランド地方には日本との古い関係を示す数多くの形跡・実証品がある。江戸時代から今日のこれらの物を数え上げれば枚挙に暇が無い状態である。
数年前に米国のボストン日本人会に、灯ろう等の古い日本美術の修復基金の奨励の申し入れがあった。同地としては資金不足で満足な回答が出来なかった。これを契機にボストン日本人会日本支部の様な組織を作って、この様な場合に日本から支援する体制を作ってはその提案がボストン日本人会の役員会でなされた。

その結果出来たのが日本ボストン会である。近所作るものであるから、日米文化交流を基軸に据えようと言う事で後援の会館が作られた。
数年前に在る関係者の熱意と米国のボストン日本人会の支援で今回発足に至った事を感謝したい。日米の両組織は独立した組織であるが、設立の経緯からして今後とも密接な協力関係を維持して、日米友好の架け橋の一環を担っていかたいと思う。
人生最大の幸せは仲間との語りである。入会希望者を是非事務局へご連絡下さい。

日本ボストン会会報 (The Boston Association of Japan) #39 平成24(2012年)3月8日

日本ボストン会会報

発行所 日本ボストン会事務局 〒153-0064 東京都目黒区下目黒4-17-6 Fax 03-3792-677

日本ボストン会20周年

顧問 吉野 耕一

日本ボストン会が20周年を迎えている。記念行事も色々企画されている。ここでは会の発足を振り返ってみる。
私がボストン日本人会会長を引き継いだ1991(平成3年)正月、副会長だった藤田紀明氏が突然病気で辞職された。私の突然で無責任な反応は「帰国されたらボストン日本人会の支那のようなものをつくりませんか」だった。藤田氏が「やってみよう」と即断に反応されたのが日本ボストン会の始まりだった。
実は岩佐幹会長の時ボストンにある日本からの建造物の修理支援を申し込まれたのが、当時の日本人会では出来なかった事が頃の構構にあったのが、私の突然の反応になったと思える。
当時日本にはハーバード、MIT、エール(会友)等が長年東京に支部をもっていたが、我々の目指す会は企業を含んだボストンに滞在した方々、ボストンに愛した方々総ての人たちの会として発足を目指して藤田氏の活動が始まった。私は高エネルギー研究所との共同研究で少なくとも年一回は帰国していたので、多少の支援は出来た。

講演と音楽の夕べ

日時	平成5年（1993年）6月11日（土）18:00 - 21:30
場所	「アンダーテール」
講演	青山タイシンビル西館地上1階（地下鉄有楽町線・半蔵門線青台一丁駅下車）
講演	工学博士・東京大学名誉教授（ハーバード大学准教授）「環境問題」 クソとカント
音楽	松岡英子（1992年ニューイングランド音楽院大学院卒業）ピアノ・演奏
会費	お一人 8千円（お食事代込み）
申込み先	日本ボストン会事務局（詳細同封紙参照）

日本ボストン会20周年記念行事（予告）

日時： 平成24(2012年)11月10日(土)午後2時~午後7時。
場所： NEC 三田ハウス芝クラブ（JR 田町駅、都営地下鉄三田駅下車）
港区芝5-21-7、TEL 03-5443-1400
記念式典： 午後2時半開始(予定)。
記念講演： 顧問 吉野耕一(初代代表幹事)
記念出版披露： 会報掲載寄稿文・合本
「フェノロサ、ビッグロウと三井寺」
山口静一埼玉大学名誉教授、前名古屋ボストン美術館長。
記念パーティ・総会： 午後5時開始(予定)
日本ボストン会の活動はホームページにてご覧下さい。 <http://www1.biglobe.ne.jp/~boston/>

日本ボストン会事務局 
〒153-0064 東京都目黒区下目黒4-17-6

会報の
原稿を募集します。内容はボストンやニューイングランドに関連のあるものとします。ご寄稿頂ける方は、掲載についてご相談をさせ